

小中学校で学ぶ防災・事前復興教育プログラム

ロールプレイングディスカッション～大災害からの復興を考える～

（愛媛県立宇和島東高等学校）

令和元年度 事前復興フォーラム
2020.3.7（ビデオ講演）

**小中高校で学ぶ
防災・事前復興教育プログラム**

宇和島東高等学校での試行

ロールプレイング・ディスカッション

**社会システム学習の中での学び
～大災害からの復興を考える～**

宇和島東高校 教諭 窪地育哉

この試行授業は、宇和島東高校 1 年 7 組（商業科進学クラス）にて実施した。生徒数が 38 名、男子と女子の共学クラスである。

シナリオ・手順

【1 時限目】事前学習 大災害からの避難から復興までを考えるための基礎的な知識と置かれる状況のインプット

- 前置き 5分
- 事前学習
 - (1) 南海トラフ地震による大災害の可能性 10分
 - (2) 私たちのまちに起こること 10分
 - (3) 被災後の生活を想像（模擬アンケート） 20分
 - (4) 私たちのまちと生活の再建 5分
 計50分

【1 時限目】事前学習
宇和島東高校 1 年 7 組
2019.11.15

(1) 南海トラフ地震による大災害の可能性

(3) 被災後の生活を想像（置かれる立場）

(3) 被災後の生活を想像（模擬アンケート）

【1 時限目】は、4 項目の事前学習を行う。

- (1) 南海トラフ地震による大災害の可能性
- (2) 私たちのまちに起こること
- (3) 被災後の生活を想像（模擬アンケート）
- (4) 私たちのまちと生活の再建

1. 前置き **授業資料**

私たちが暮らす世の中（社会や世界）には、日々、たくさんのいろんな出来事が起こっています。

今日の天気が雨だったとき、
あなたは学校に行くために、傘を差しますか、
雨合羽を着ますか、歩きますか、自転車に乗りますか・・・
あなたは雨を避ける方法を知っているから雨具の一つを選び、
帰る頃の天候も予報されているから先のことも考えます。

では、そのような日常の出来事ではなく、
ある日、途轍もなく大きな出来事が身の回りに起こったとき、
あなたは、それに関わる“いろんな立場の人たち”とともに、
意見を出し合い、視野を広げて互いにより深く考え、
よりよい選択となる「合意」を目指さなければなりません。

「1. 前置き」では、授業への導入として、日常の行動と非日常（被災後）の行動をイメージする。

2. 事前学習 (1) 南海トラフ地震による大災害の可能性 **授業資料**

“途轍もなく大きな出来事”の最たるものは自然災害です。

「南海トラフ地震」は、およそ100年から150年の時間周期で発生する大規模自然ハザードです。

今年、前回の昭和南海地震から73年の時間が経ち、その発生確率は日増しに高まっています。

発生率	名称	南海	東南海	東海
1605年 2月 3日 (M=7.9) ↓ 102年後	慶長地震	同時	同時	同時
1707年 10月 28日 (M=8.4) ↓ 147年後	宝永地震	同時	同時	同時
1854年 12月 23日 (M=8.4) 1854年 12月 24日 (M=8.4) ↓ 90年後	安政東海地震 安政南海地震	32時間後	同時	同時
1944年 12月 7日 (M=7.9) 1946年 12月 21日 (M=8.0) ↓ 73年後 (2019年) ????年 ??月 ??日 (M=??)	昭和東南海地震 昭和南海地震	2年後	同時	同時
	南海トラフ地震			

南海トラフ地震と想定される被害 **授業資料**

宇和海沿岸
想定津波高10m以上

想定されている最大の被害
全国で犠牲者が30万人、被害金額が220兆円
（平成25年3月18日、中央防災会議）
この被害は東日本大震災の10倍を大きく超える

Google

「2. 事前学習」の(1)では、“南海トラフ地震による大災害の可能性”を理解する。この地震は 100 年から 150 年の時間周期で発生する大規模地震ハザードで、次回が最大規模となる可能性があり、宇和海沿岸は 10m を越える津波高となることなどを説明。



(2)では、“私たちのまちに起こること”を知る。
学習①は、南海トラフ地震の可能性によりまちに起こること（大災害、ハザードマップの意味）を知る。



学習②は、“被災後の生活（直面すること）”，“まちと生活の再建”について知る。

(3)では、“被災後の生活”を想像する。その理解を容易とするために、【模擬アンケート】を実施する。
以下に、最初からの内容の数例を示す。

Q1：あなたと家族の住む家（実際の生活の場）が受ける被害を想像する。

模擬アンケート ～仮想南海トラフ地震からの生活再建を想像する～ 授業資料

2XXX年のある日、南海トラフ地震が発生しました。あなたのまちは、強い揺れ（震度6強）と大津波（津波高5m以上）に襲われて壊滅的な被害を受けました。あなたの家も全壊して住めなくなりました。大人になったあなたと家族が直面するであろう大災害（助かったけど、住む家が失われた）の日から、その後の生活を再建するまでの道のりを想像してみましょう。

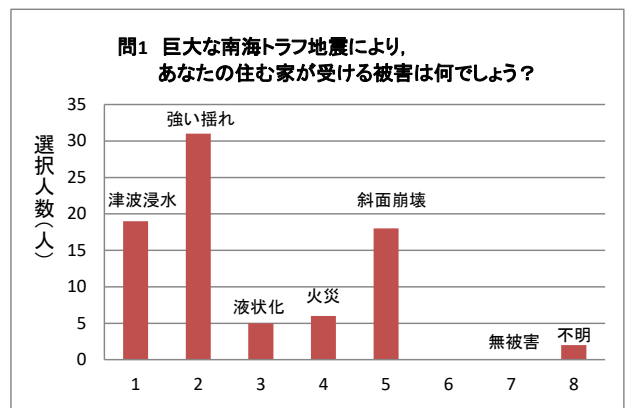
あなたと家族（住む家）が受ける被害

問1：巨大な南海トラフ地震により、あなたの住む家が受ける被害は何でしょう？
例えば、津波浸水深が2mを超える一一般住宅は「全壊」となる可能性が極めて高くなります。あなたが想像する「家屋の被害（要因）」をすべて選択してください。

家屋の被害
複数選択可

- 津波浸水による家屋の被害（流失など）
- 強い揺れによる家屋の被害（倒壊など）
- 液状化による家屋の被害（傾斜や崩壊など）
- 地震火災による家屋の被害（焼失など）
- 斜面崩壊による家屋の被害（土砂の直撃による倒壊など）
- その他の被害（ ）
- 被害は受けない（理由： ）
- わからない

※「全壊」…住家全部が倒壊、流失、埋没、焼失したもの、または住家の損壊が甚しく、補修により元通りに再使用することが困難なもの（災害の被害認定基準（内閣府））



Q2：災害発生直後の“避難生活”を想像する。

地震の災害発生直後の避難生活 授業資料

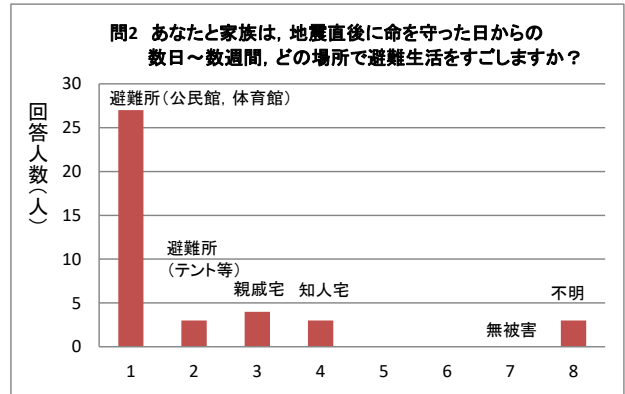
問2：あなたと家族は、地震直後に「避難場所」へ逃げて命を守った日からの数日～数週間、どのような所で避難生活を送りますか？
あなたが想像する“地震直後の避難生活”を1つ選択してください。

地震直後の避難生活

- 「避難所」（※公民館や学校の体育館など）
- 「避難所」（※避難所に入れない場合は、近くで自前のテント生活などを行う）
- 被害のなかった地域の親戚宅（※南海トラフ地震の被害は西日本一帯に及びます）
- 被害のなかった地域の知人宅（※ 同上 ）
- 被害のなかった地域のホテル・旅館などの宿泊施設（※ 同上 ）
- その他（ ）
- 被害は受けないので避難の必要はない（※ただし水道やガスは停止しています）
- わからない

※「避難場所」…災害時の危険を回避するために一時的に避難する場所のこと。「緊急避難場所」とも言います。一般的に屋外の建築物がないスペースが指定されていることが多いです。
※「避難所」…災害によって避難生活を余儀なくされた場合、一定期間の避難生活を行う施設のこと。「収容避難場所」ということもあります。災害で住居を失った人などの一時的な生活場所になるため、公民館や小・中学校等の体育館などの屋内施設が指定されており、地域防災の備えとして非常食や衣料品、飲料など様々な物資や消耗品が保管・備蓄されている「防災倉庫」が併設されていることが多いです。

高台に避難してください



Q3：復興が進むまでの“当面の居住先”を想像する。

（復興期）復興に向けて復旧が進むまでの“当面の居住先” 授業資料

問3：復興に向けて復旧が進むまでの数年間、あなたと家族はどのような所で生活しますか？
あなたが想像する“再建までの当面の居住先”を1つ選択してください。
また、“入居条件の希望”について3つを選択してください。

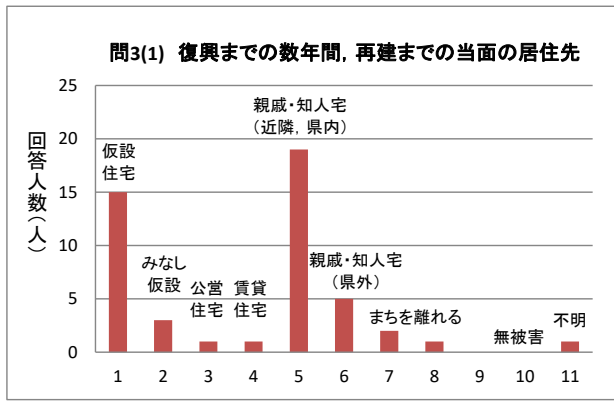
再建までの当面の居住先

- 「仮設住宅（応急建設住宅：行政が建設するプレハブなど）」に入居（※被災地の近く）
- 「みなし仮設住宅（応急増設住宅：民間の賃貸住宅）」に入居（※被災地の外）
- 既設の公営住宅など（数週間住宅を空く）に入居（※仮設住宅からの転居を含む）
- 民間の賃貸住宅（みなし応急建設住宅を併用）に入居（※同上）
- 親類・知人宅（近隣地域、県内）に入居
- 親類・知人宅（県外の遠方）に入居
- 被害を受けたこのまちを離れ、新たな生活を始める（近隣地域、県内）
- 被害を受けたこのまちを離れ、新たな生活を始める（県外の遠方）
- その他（ ）
- 被害は受けないので自宅で生活（※ただし水道やガスの供給は途中から始まります）
- わからない

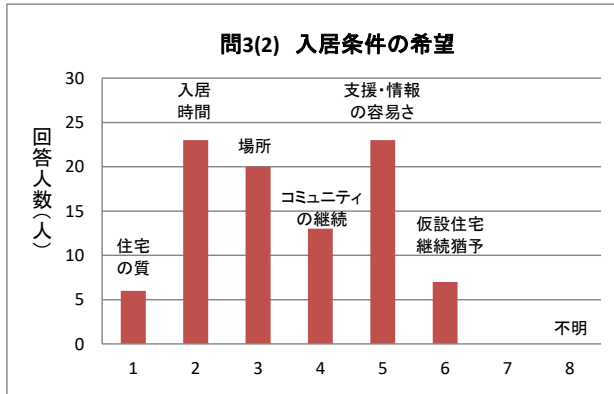
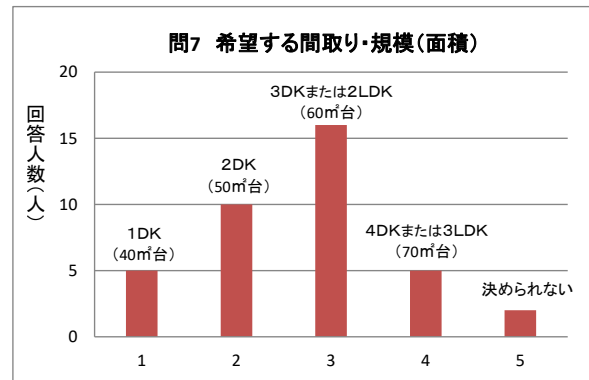
入居条件の希望 ※3つ選択

- 住宅の質（例えば、 ）
- 入居までの期間（ ）1ヶ月以内、 ）3ヶ月以内、 ）6ヶ月以内、 ）1年以内：※選択
- 場所（ ）地域内、 ）地区外：※選択
- コミュニティ（地域のみなちとつながり）が継続すること
- 災害支援が受けやすい、情報が行きやすいこと
- 応急建設住宅の備え、居住期間が終了後も居住の継続が許可される場があること
- その他（ ）
- わからない

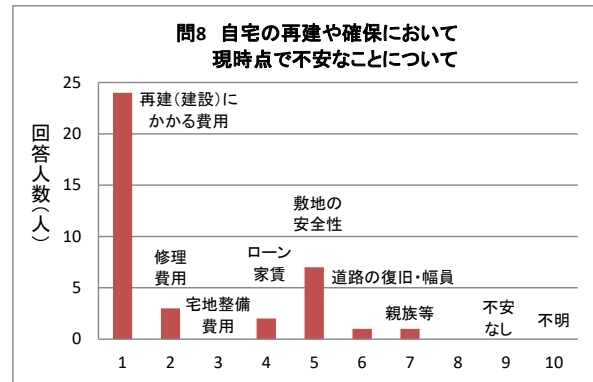
※「仮設住宅（応急建設住宅）」…災害で家を失った人に一時的に居住する場所を提供するもので、数年間の居住を目安とした一時的な住居であることから、プレハブや木造でできているのが一般的。



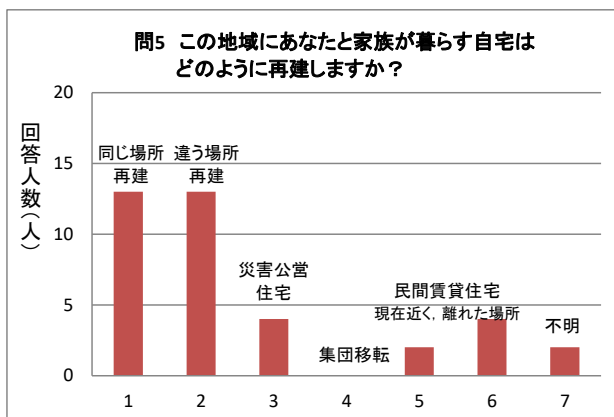
Q7：自宅再建の意向（希望する間取り・規模）



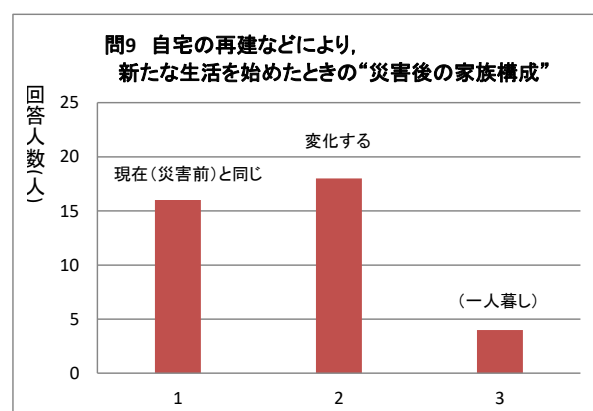
Q8：自宅の再建や確保に、現時点で不安なこと



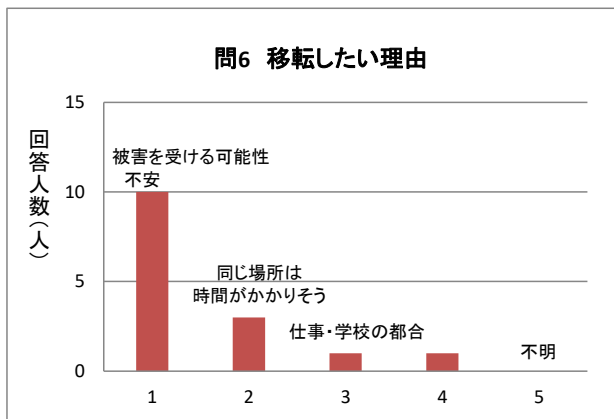
Q5：自宅再建の意向（再建方法）



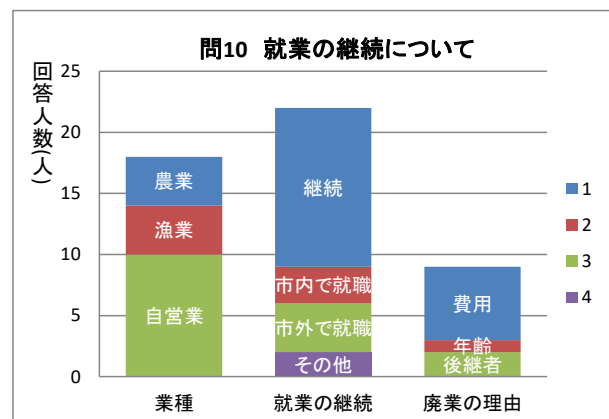
Q9：災害後の家族構成



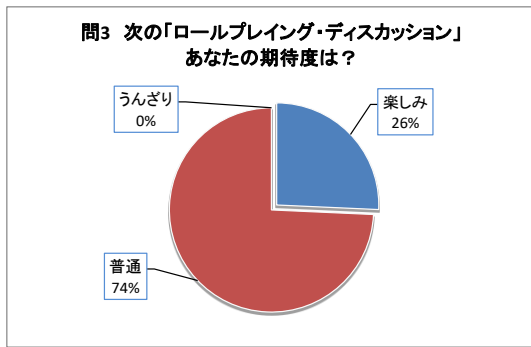
Q6：自宅再建の意向（転居する人の理由）



Q10：就業の継続について予想されること



以上のようなアンケートを介して、被災後の生活を想像するための学習を行った。



【2,3 時限目】ロールプレイング・ディスカッション

事前学習の復習	5分
3. 始める前に：議論のためのグランドルール	5分
4. 復興の当事者となるみなさんの立場	10分
5. ディスカッション（１）～生活再建の意向～	
①テーマ：あなたは、このまちに住み続ける？	5分
②住民の立場による意向と理由を考える	25分
6. ディスカッション（２）～復興計画の合意～	
①テーマ：まちの復興計画をどうする？	5分
②復興計画案の提案（行政より）	10分
③住民の立場による賛否と理由を考える	35分
④賛否の意思表示、ディスカッション	一分

2

【2, 3 時限目】で、ロールプレイング・ディスカッションを行う。

2019.11.22 授業資料

「南海トラフ地震事前復興教育プログラム」
ロールプレイング・ディスカッション

社会システム学習の中での学び
～大災害からの復興を考える～

【2 時限目】

令和元年11月

愛媛大学防災情報研究センター
協力：宇和島東高等学校

3

【2 時限目】は、前回の事前学習の復習から始める。

【復習と補足】 授業資料

- ・ 歴史的事実：南海トラフ地震は100年～150年で繰り返す地震 ⇒ 必ず来る地震
- ・ この表は “人間が残した記録” ⇒ 宝永地震は大きかった（東北クラス？）
これより前は “地球に残された記録” ⇒ 今から約2000年前にも
大きな地震の痕跡（高知県土佐市）
- ・ 昭和南海地震は、3.11東日本大震災クラスではなかった。
⇒ 次回は？（※3～4回に一度は大規模、※1000年に一度・・・）

発生年	名称	南海	東南海	東海
1605年 2月 3日 (M=7.9)	慶長地震		同時	
↓ 102年後				
1707年10月28日 (M=8.4)	宝永地震		同時	
↓ 147年後				
1854年12月23日 (M=8.4)	安政東海地震			
1854年12月24日 (M=8.4)	安政南海地震		32時間後	
↓ 90年後				
1944年12月 7日 (M=7.9)	昭和東南海地震			
1946年12月21日 (M=8.0)	昭和南海地震			2年後
※ 73年後 (2019年)				
????年??月??日 (M=??)	南海トラフ地震			

4

【復習と補足】 授業資料

- ・ 自然のハザード…自然（地球）が引き起こす特異な現象、大きな力
例えば、地震による揺れ、津波、地盤の液化化、斜面の崩壊
異常気象による豪雨、大雪、寒波
隕石の落下 ⇒ 避けられないもの、日常ではないこと
- ・ 私たちのまち…人の暮らしに必要なもの、しくみ、文化
例えば、公共の施設、道路、電気・ガス・水道、・・・
行政システム、産業・・・
歴史、祭り、地域のつながり（コミュニティ）・・・
- ・ 大きな災害…この二つが重なったときに起こる出来事
⇒ 災害を防ぐ（＝防災）、被害を小さくする（＝減災）
事が起きる前に考え、準備しておくこと（＝事前復興）

災害の発生

① 自然のハザード + ② 私たちのまち ⇒ ③ 大きな災害

④ 防災・減災 事前復興

5

新たな生活を取り戻すまでの時間 授業資料

（大災害から避難した後、私たちが直面すること）

※時間は目安です

発災直後 ～1時間 1～7日 ～2,3ヵ月 ～2年 それ以降

① 津波から逃げる ② 救助を待つ ③ 避難所等で生活 ④ 仮設住宅等で生活 ⑤ 元の生活に戻る

復興

6

私たちのまちと生活の再建（いつもの生活） 授業資料

住民 行政 産業 文化

【まちづくり、生活支援】
公共施設、交通網、学校、・・・
様々な行政サービス

【仕事・生業（なりわい）】
農業、漁業、建設業、製造業、・・・サービス業
個人事業・企業・組合

【地域に暮らす人たち・家族】
幼児・児童・生徒・学生
大人（様々な職業）
老人（年金生活）など
※その多くの人たちが、このまちに生まれ育った。

【地域の宝】
歴史、祭り、コミュニティ・・・

7

私たちのまちと生活の再建（被災後の生活） 授業資料

住民 行政 産業 文化

地域内の合意形成

※復興の計画・実行者
（日頃やらない仕事に直面）

将来ビジョン

地域の安全と再建
（基盤、産業、社会、生活）
②-新しいまちづくり
-被災者の自立支援

自己の再建（住まい、暮らし）
発災 ⇒ 住まない、住みたくない、住めない、わからない ⇒ 住む、住みたい、住める ①

8

特に、“私たちのまちの再建”については、「いつもの生活」と「被災後の生活」、それを構成する住民と行政、産業、文化を想像し、再建における2つのテーマ（居住の判断、新しいまちづくり）を意識する。

3. 始める前に：議論のためのグランドルール

授業資料

ロールプレイングディスカッションのルール

- 1 自分の立場に沿って考え、発言する
 - ・OK「私の立場からは、この提案には賛成できません。その理由は、私の生活への影響が……」
 - ・NG「私はほんとは、そう思っていないんだけど、この人は……」
- 2 自分の心情などは隠さない
 - 人の心は見えませんが、同じように立場を隠してはいけません。あくまで想像によって推します。
 - NG「この人はこういう人なので、私はこう言います」
- 3 立場が変わった以前の立場のことは記憶しない
 - 人の心は見えませんが、記憶はあっても、自分の立場に沿って考え、見えない心で行動はしないこと。

議論のルール

- 1 議論とは勝ち負けではない
 - より良い結論を導き出されるように話し合いをする。簡単に相手を否定したり、喧嘩腰になったりすると対決姿勢では、なにも解決しない。
- 2 あなたの意見は、あなた自身ではない
 - あなたの意見と、あなた自身を分離せよ。与えられた立場に立って議論を展開する。
- 3 討論の目的を思い出せ
 - 相手をやり込める訓練ではない。同じ情報が立場によって異なった価値を持つことを知り、多様な社会におけるコミュニケーションについて考えることが目的である。議論に勝っても損を獲てしまうか否かは歴史を見れば明らかである。

（大橋淳史@愛媛大学）

まず「議論のためのグランドルール」を学ぶ。
ディスカッションは、「立場による意見対立の存在」を知り、「よりよい「合意」を得るという社会システムの学習としても取り組む。

授業状況

【住民カード】
生徒が担当する住民の立場の確認

今回は、3～4人が1グループとなって、各々にR1～R10の立場の一つを割り当てた。

また、授業の進行にはICT技術（今回は「ロイロノート・スクール」とiPad）を用いた。今回は立場カードを紙面で配布したが、それもネット配信が可能。

4. 復興の当事者となるみなさんの立場

授業資料

カード	R1	R2	R3	R4	R5	A1	A2	C1
立場	住民	住民	住民	住民	住民	行政	行政	国内企業
職業等								
年齢	35	35	35	45	45	45	45	—
被災	あり	あり	あり	あり	あり	あり	なし	あり

カード	R6	R7	R8	R9	R10	N1	N2	C2
立場	住民	住民	住民	住民	住民	園外人	園外人	園外企業
職業等								
年齢	55	55	55	35	75	40	40	—
被災	なし	なし	なし	なし	なし	—	—	あり

【住民カード】生徒のみなさんが担当する住民の立場です。

- ・立場を一人またはグループに割り当てます。
- ・カードにはあなたの立場と家族、まちへの思い、将来への希望が書いてあります。
- ・グループの場合は、役割も決めます。（司会役、書記役、発表役）

（例）住民カード：R1

あなたの立場：

- ・あなたは、若手のみかん農家だ。
- ・この地域の歴史あるみかん産地を担っている。

年齢：35歳（働き盛りに入ろうとしている）

家族：3世代6人家族
両親60歳、妻35歳、子供（2人：小学校低学年）

まちへの思い：

- ・太陽の恵み豊かな中で育ったこのまちが大好きだ。

将来への希望：

- ・みかんをブランド化して発展させたい。
- ・将来、子供にも後を継いでほしい。

年収：500万円（親の収入含む） 家：持ち家
借金：農機具ローン200万円

受けた被害：

- ・津波で住む家を失った。
- ・裏山の農地の半分が崩壊したが、残ったみかんの木には被害なし。

ディスカッションの内容に応じて、設定した立場を提示する。今回は住民の立場のみを割り当てた。

〔立場の設定〕以下を共通事項とした。

- ・家族あり（親、結婚、子供）
- ・持ち家あり（親の家、新築など）
- ・郷土愛あり（教師情報より、種々に考慮）
- ・何らかの被災（直接的な被害または間接的な被害）

5. ディスカッション（1）

授業資料

① テーマ：あなたは、このまちに住み続ける？

2XXX年のある日、南海トラフ地震が発生しました。強い揺れと大津波に襲われ、あなたのまちは壊滅的な被害を受けました。あなたの家も失われてしまいました。避難所での生活から仮設住宅に移るころ、あなたは考え始めました。

“これからの生活をどうしよう？”

【考える前提】自分たちを育ててくれた素晴らしいまち

産業

【仕事・生業（なりわい）】
農業、漁業・建設業、製造業・サービス業
個人事業・企業・組合

文化

【地域の宝】
歴史、祭り、コミュニティ……

② 住民の立場による意向と理由を考える

授業資料

このまちに住み続ける？ その理由
この地域を出て、ちがうまちに住む？ その理由

住む
(住みたい)
(その理由は……)

住まない
(住みたくない)
(その理由は……)

その他の考え
(その理由は……)

ディスカッション（1）

テーマ：あなたは、このまちに住み続ける？

前提：自分たちを育ててくれた素晴らしいまち

3つのカードより、自分たちの住民の立場による意向と理由を考える。それをロイロノート上で提出し、全員に公開する。

授業状況

5. ディスカッション (1)

① テーマ：あなたは、このまちに住み続ける？

2009年のある日、南海トラフ地震が発生しました。強い揺れと大津波に襲われました。あなたのまちの生活が壊滅的な被害を受けました。あなたの家も壊れてしまいました。

避難所での生活から仮設住宅に移るころ、あなたは考え始めました。

「このまちに住み続けるかどうか？」

【考える前提】自分たちを苦しめた事件を思い出し、

【ディスカッション】住民の立場から考えた意思表示

16

授業状況

2 回目

1 回目

【ディスカッション】情報の注入による考えの変化

17

意思表示後にファシリテータ（教員）が情報を注入し、意向と理由を修正提出する。各々が発表する。

2019.11.22 **授業資料**

「南海トラフ地震事前復興教育プログラム」
ロールプレイング・ディスカッション

社会システム学習の中での学び
～大災害からの復興を考える～

【3 時限目】

令和元年11月

愛媛大学防災情報研究センター
協力：宇和島東高等学校

18

授業資料

5. ディスカッション (2)

① テーマ：まちの復興計画をどうする？

家を失った住民の方々が仮の生活を始めるころ、行政に携わる人達は「まちの復興計画」に取り掛かった。担当者が考えたプロセスは、次のように住民主体だった。

- ・ いろんな事項を考えて、まずはプランの素案を作成する
- ・ 住民に開示し、ワークショップを介して意見を集約する
- ・ 住民が納得し、まちにとって有益な案を最終とする

ただし、国の補助を得るための時間は限られる。

【考える前提】自分たちは、このまちに住み続けたい

命を守る、郷土を守るための備え

まちの復興、復興のビジョン

生活の再建

産業の再生

19

ディスカッション (2)

テーマ：まちの復興計画をどうする？

前提：自分たちは、このまちに住み続けたい

予備知識：災害からの復興の事例

失われたまち（生活）
混乱、厳しい復興への道

2011.3.11 東日本大震災

これらの事例は、復興まちづくりの一部

- ・ 生活再建
- ・ 産業再生
- ・ 安全の確保

→ 人が残るまち

授業資料

避難生活（仮設住宅）

まちの復興（高松市、高台移転）

生活・住宅再建（災害公営住宅）

まちの復興（津波防波堤）

【被災者生活再建支援金】
・ 支給額は最大300万円
・ 基礎支援金と加算支援金（住宅の被害程度、再建方法）

【生活見舞金】
【生活再建金】
【住宅の応急修理制度】
【災害援護資金】

20

計画を提示する前に、予備知識として、災害からの復興の事例を示す。

② 復興計画案の提案（行政役の教員より）

授業資料

【提案された復興計画】

- ・ 二度と津波災害※を受けない
- ・ 高台を造成して、地区ごとに防災集団移転を行う！

※ 災害＝ハザード×人の生活圏の弱部

防災マップ（イメージ）

（石巻市HPより）

21

授業資料

留意点：

- ・ 1、2 年では完成しない事業
- ・ 相当額の予算が必要（国の補助などを活用）
- ・ しかし、「安全」は復興まちづくりの課題である

（参考）移転までの流れ

法定手続

調査
事業計画案は復興整備計画の策定のための調査費を措置

調整
移転者の同意

事業計画策定等
事業計画、復興整備計画の策定
国土交通大臣の同意

造成・整備着工
住宅地の造成、公共施設等の整備を着工

移転

【工事費】
約200億円/〇〇m²
※被災世帯は条件により補助金・土地買収制度がある。

（内閣府HPより）

22

教員が行政役となって、復興計画案を提案する。

- ・ 二度と津波災害を受けない。
 - ・ 高台を造成して、地区ごとに防災集団移転を行う。
- あわせて、簡単に留意点を示す。

③ 住民の立場による賛否と理由を考える

それぞれの住民の立場から考えて、判断をする。
(感情・感覚的判断でも良い)
(ディスカッションの中で考えが変わっても良い)

計画賛成
(その理由は・・・)

計画反対
(その理由は・・・)

中立
(今後に判断)
(その理由は・・・)

授業資料

23

ディスカッション (1) と同様に、賛否の選択カードを3枚渡す。立場から想像を巡らせて賛否と理由を考える。

以下は、授業風景。

授業状況



5. ディスカッション (2)
① テーマ：まちの復興計画をどうする？
家を失った住民の心が傷の生活を始めるころ。行政に頼る人達は『まちの復興計画』に取り組む。計画者が考えたプロセスは、次のように住民主体だった。
・いろいろな意見を聞いて、まずはプランの草案を作成する
・住民に開示し、ワークショップを介して意見を聴く
・住民が納得し、まちにとって有益な案を最終とする
ただし、国の補助を得るための時間がかかる。【考える時間】自分たちは、このまちに住み続けたい。

24

授業状況



25

③ 住民の立場による賛否と理由を考える

それぞれの住民の立場から考えて、判断をする。
(感情・感覚的判断でも良い)
(ディスカッションの中で考えが変わっても良い)

計画賛成
(その理由は・・・)

計画反対
(その理由は・・・)

中立
(今後に判断)
(その理由は・・・)

授業状況



3枚のカードから、自分たちの立場からの判断を選ぶ

そのように判断した理由を書く



26

社会システムの学習 & 大災害からの生活再建のプロセス (置かれる状況) を疑似体験する

授業状況



27

【ディスカッション】情報の注入による考えの変化

1回目

2回目

授業状況

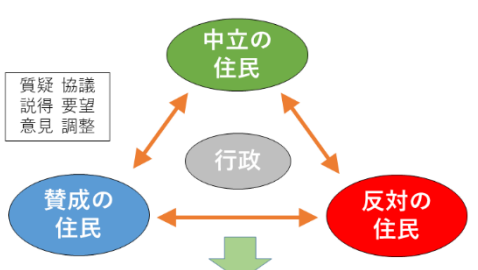


28

1 回目の意思表示後にファシリテータ (教員) が情報を注入し、意向と理由を修正提出する。2 回目の提示後に、各々が考えた理由を発表し、意見する。ここで、ファシリテータは、“安全” “資金” “まちの良さ” など、何を重視したか？と聞くなど、進行方法を工夫するとよい (今回の反省点)。

④ 賛否の意思表示、ディスカッション

まずは住民の合意形成を目指す (行政は計画案の説明のみ)
各々が賛否とその理由を表明し、お互いの考えを議論する



質疑 協議
説得 要望
意見 調整

お互いの考えを理解し、より良い計画案を模索し、合意に導く

授業資料

29

今回、時間内に実施できなかったことを今後、試みたい。まずは、以下のことは必須としたい。

- ・立場を入れ変えたディスカッション
- ・行政等の立場を加えたディスカッション

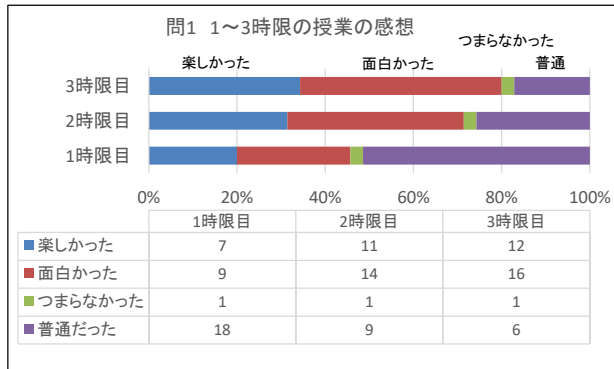
【授業を終えてのアンケート結果】

※授業終了後に配布し、後で記載・回収した。

※1 時限目と 2・3 時限目の実施日は 1 週間空いた。

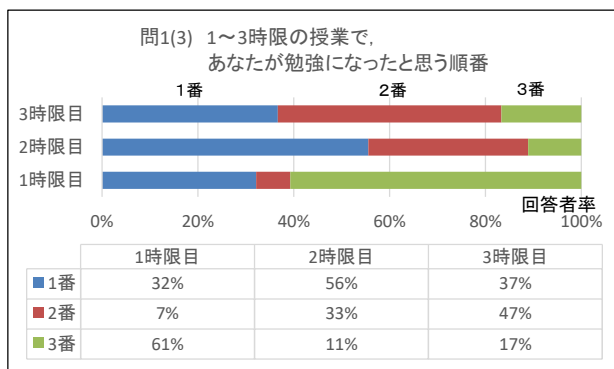
Q1：授業の感想

2・3 時限（ロールプレイング・ディスカッション）は 8 割近くの生徒が楽しい・面白いと思っている。



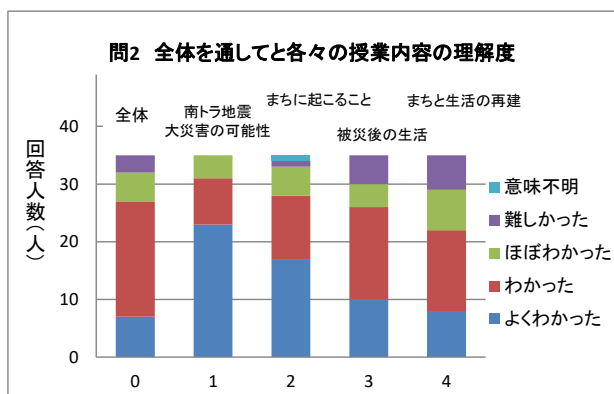
Q2：勉強になったと思う授業の順番

2・3 時限（ロールプレイング・ディスカッション）が 1, 2 番を争う。特に 2 時限目が 5 割以上。



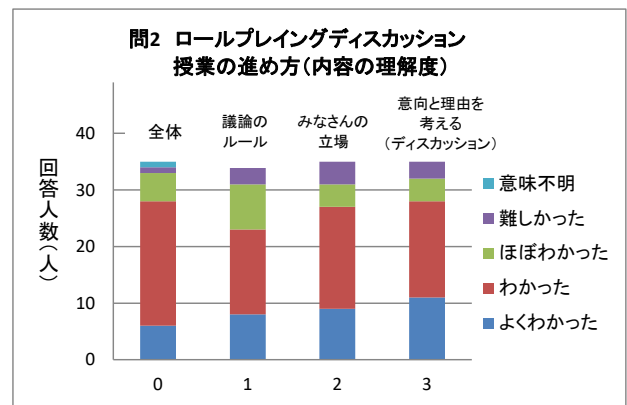
Q3：1 時限目の授業の理解度

よくわかった・わかったが 6～8.5 割、ほぼわかったを合わせると 9 割前後となる。“被災後の生活” から“まちと生活の再建”の理解度が下がっている理由は、馴染みが薄い情報だったためと思われる。



Q4：2, 3 時限目の授業の進め方（内容の理解度）

授業は、全体を通しておよび各項目において、ほぼ理解された状況の中で進められている。何を理解したかを具体的に聞いていないが、災害後に直面する状況を知ったという意味合いであると推察される。また、今回は相互のディスカッションが行えなかったため、中途半端な状況での回答でもある。



Q5：この授業が、将来のその日に役立つか？

「その日」は、南海トラフ地震、巨大災害へ直面する日から復興・生活再建までのことを指すことは理解されていると思う。それに対し、74%の生徒が有益な学習を得たと回答している。無回答もあるが、“思わない”が 0%であることは意義深い。

